

モンゴルの概要

1 面積

156万4,100平方キロメートル（日本の約4倍）

2 人口

306万1,000人（2015年，モンゴル国家登記・統計庁（以下「NRSO」））

3 首都

ウランバートル（人口134万5,500人）（2015年，NRSO）

4 民族

モンゴル人（全体の95%）及びカザフ人等

5 言語

モンゴル語（国家公用語），カザフ語

6 宗教

チベット仏教等（社会主義時代は衰退していたが民主化（1990年）以降に復活。1992年2月の新憲法は信教の自由を保障。）

7 略史

- | | |
|----------|-------------------------------|
| 1911年 | 辛亥革命，中国（清朝）より分離，自治政府を樹立 |
| 1919年 | 自治を撤廃し中国軍閥の支配下に入る |
| 1921年7月 | 活仏を元首とする君主制人民政府成立，独立を宣言（人民革命） |
| 1924年11月 | 活仏の死去に伴い人民共和国を宣言 |
| 1961年 | 国連加盟 |
| 1972年2月 | 日本とモンゴル外交関係樹立 |
| 1990年3月 | 複数政党制を導入，社会主義を事実上放棄 |
| 1992年2月 | モンゴル国憲法施行（国名を「モンゴル国」に変更） |

（資料：外務省）

モンゴルに行ってきます

トラブル発生

14時40分 成田発モンゴル航空ウランバートル行き



当時登場時間が遅れている これはよくあること

モンゴル航空は初めて乗る航空会社

な なんと飛行機がボーディングブリッジから離れていく



いきなり時間変更

14時40分から22時30分に変更

理由は、「ウランバートル地方の天候悪化のため」という

テレビでは、羽田空港であの航空会社がトラブルを起こしたらしい

空港封鎖で殆どの便が欠航



ナッツ航空のおかげで、羽田の客が成田の押し寄せる

「1000円飲食券」をもらって、8時間暇つぶし



成田空港第一ターミナル探索
みやげ物屋 エンドは「招き猫」



「南部鉄瓶」もこれだけ揃えてある

別の店は「日本酒」と「焼酎」に注力



これで免税価格らしい
「焼酎 宝山」ボトルが違うが中はどうか



こんなビジネスも

「着物を着せて、写真撮影ビジネス」



周りに立っているお姉さま方が怖い
時間があるので、こんな勉強も
「狂犬病」アジア～ユーラシア大陸
放っておくと死にいたることも



「ジカウイルス感染症」アジアでは、タイ、フィリピン、ベトナムで流行
蚊に刺されることで感染する

「MERS 中東呼吸器症候群」

ラクダに触ることで感染 呼吸困難を引き起こす



それでも時間を潰したのは1時間ほど

モンゴル航空はどこともアライアンスがないためラウンジを使えない
仕方なく、ユナイテッド航空のラウンジに59\$払って使わせてもらう



約6500円は安い、高いか

こんな屏風も

ここで、6時間過ごす予定だ



久しぶりにカナディアンウィスキーを飲んだが、前よりおいしくなったような気がする
(写真右下)



飲み負けない、食い負けないようにしなくては

「伊勢志摩サミット」を伝える日経新聞

「消費税引き上げ」が引き伸ばしされた

阿部総理は結論をサミットまで引き延ばし、「お土産」にした



写真をよく見ると不自然

ドイツのメンケル首相だけが手を上げていない

ドイツではこのポーズは禁止だが、これはないだろう

写真を拡大してみれば分かる

それでは、今度こそウランバートルに向けて出発

もし、今度飛ばなかったら旅行をキャンセルするつもりだ

モンゴル航空は無事ウランバートル国際空港へ朝4時に到着

専用車でツーリストキャンプに向かう

朝は寒い



こんな景色が続く

モンゴル ウランバートルから車で1時間ほどのツーリストキャンプに到着



ここからの景色

放牧されておる馬が見える



こんな花も咲いている

ゲルの入口は必ず南側を向いている



ゲルの中

スタッフが来て寒いのでまきストーブを焚く



中心が明り取りと煙突 ベッドは4個ある

日本のラーメン丼の淵のデザインは、中国からではなく、モンゴルから



ゲル1張を一人で独占

ストーブの火を絶やさぬようにしてまずは就寝
起きたら馬に乗る予定だ



モンゴルで馬に乗る

珍しく3泊4日のツアー旅行の申し込んだ

モンゴルの個人旅行は面倒くさいということと、日程がタイトであったため、楽なツアーにした

3泊ということは、中2日しかない

1日目はツーリストキャンプでゲル体験と乗馬

2日目はウランバートル市内観光

天気もよく、景色は最高

景色を見ていると別の惑星にいるようだ



放牧中の馬が草を食べている

今回乗る馬

参加者は、男性3名、女性5名

男性2名。女性1名は経験者、残りは初心者

経験者の女性1人は、なんと年齢80歳

種馬以外、乗馬に使う馬は「去勢馬」

馬は去勢しないと群れに戻りたがる

去勢すれば人になつくらしい

これはモンゴル帝国の時代から変わらない

馬力もあるため、ヨーロッパのドイツ騎士団やテンプル騎士団を撃破したのも馬力の違いもあると言われてている



乗馬の説明を受ける

馬に乗ってからカメラは使えないし、余計なことは一切できない
死にもの狂いだ！

乗る時と、降りる時に特に注意が必要

モンゴルに馬はそれほど大きくないが、油断すると危険

馬をナメてはいけない



私も馬に乗る

写真は経験者のように見えるが、ド素人



8名+4名のスタッフで出発

乗馬はそれほど楽ではない 写真を撮る余裕などない



1時間ほど馬に乗り、一般家庭のゲルを訪問

ゲルに入れてもらう



お茶と揚げパン、チーズをいただく

お茶に牛乳、塩を入れたお茶



小麦粉を練って油で揚げたパン(発酵はさせない)

子供も手伝うようでサイズはバラバラ

四角いものは手づくりチーズ

牛乳から作ったクリーム



チーズの盛合せ

乾燥状態により、柔らかいものから、かなり硬いものまである

形も四角いものや、渦巻き状のものもある

硬いものは昔から保存食として長期遠征の戦いなどに持っていったらしい

チーズの原点を見たようだ

馬や羊、ヤギが食べる牧草はこんな感じ

雨が少ない為、上には伸びない

今年は緑になるのが遅いらしい



ここで、乗馬のベテランが蘊蓄をひと言

アゴや歯の構造から、牛、馬は葉の部分しか食べない

羊は、根に近い部分まで食べる

ヤギは根を掘って食べてしまうため、後から草は生えてこない

雨の少ないモンゴルで、カシミアなどのヤギを多く育てると、砂漠化が進んでしまうらしい

カシミア人気も考えものとのこと

牛糞や馬糞は乾燥すれば燃料にもなる

こんな花も咲いている



遊牧民の人用のトイレ

日本の昔のものに比べて、幅が広い

おやつをいただきキャンプ向けてに戻る

馬は行きはゆっくりだが、帰りは駆け足、一度止まれば動かない

これが地獄！

必死で馬につかまる

馬が走り出すと、お尻の下から、ハンマーで殴られているようだ

筋肉が衰えている私にはキツイ

キャンプに戻り、遅い朝食をいただく

揚げパン



揚げパンは紅茶に浸して食べることもあるようだ

全粒粒の焼パン

これは市販のもののような

ガイドの一人は、この種のパンは食べないという

イーストかイーストフードが胸焼けを起こすらしい

オーガニック、自然食品で育ったため、今風の加工食品は合わないようだ



無塩バターとベリーのジャム
たぶんこれらも市販のもの
小麦粉入りの肉スープ



ハムとゆで卵

ハムは、モンゴルでは豚肉はあまり食べないため、牛肉かヒツジ肉

たまごは、放し飼いの鶏の卵

味が淡白で、昔なつかしい味

腰が悪い私はハーフラウンドでリタイヤ

ゲルで一休みする

後で聞いた話だが、残りのハーフで経験者の男性が落馬して、足を痛めたらしい

ムリしなくて正解であった

馬に乗るのは危険も伴う

夕飯は「人参サラダ」「ラム肉と野菜のスープ」「チキンフライ スイートチリソースかけ」

ロシア料理のようだ

人参とレーズンのサラダはうまい



ラムと野菜のスープ

味付けは塩だけ 素朴な味でおいしい

チキン(胸肉)フライとスイートチリソース

ライスと紫キャベツの酢漬け、生じゃが芋のフライ

じゃが芋は生から揚げるとクタツとする

女性陣は、フライを殆ど残す



遊牧民のゲルの生活、乗馬といい体験ができた

モンゴル帝国時代から変わっていないのがスゴイ

野菜やくだものを食べなくても、動物由来から栄養を摂取する食文化も勉強になった

モンゴルはこれから近代化が進みおもしろくなる国

観光客も増加している

ツーリストキャンプ～ウランバートル市内 へ

ゲル生活とモンゴルの衣装 ゲルの入口は必ず南向きになっている

風は北から吹くことと、日照時間が長いからだ



また、天窓からの光の方向で時間が分かるようになっている

動物の巣穴も必ず南向き

人間の知恵だけではない

岡リスの穴



さらに、ゲル集落も南向き斜面(北側斜面)につくられていることが多い

日照時間が長く、北風も防げるからだ

日本の果物や野菜も南向き斜面で作られたものが糖度が乗るとされている

こんな衣装でゲル生活をしている



こんな花も咲いている



こん食べられそうな野草も
ツーリストキャンプの最後の夕食
冷製パスタ



ハンバーグ

牛肉 100%のハンバーグ これはうまかった
飽きさせないように、メニューもいろいろと気を使っている

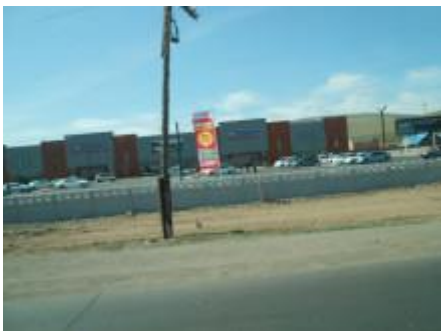
オーガニックやナチュラルフーズが話題になっているが、遊牧民の食生活は全くそのもの
口では簡単に言えるが、これを体験することが重要

例えば、モンゴル人は歯並びがよく、真っ白だ

「モンゴル人は歯が命」そんな言葉はないと思うが
カルシウムを多くとり、糖分を余りとならないこともその理由
さらに、子供の頃からとても硬いチーズを「歯固め」のために食べさせているため、歯並びが
非常によくなる

日本でも、「歯固めチーズ」なるものがあつたらいいなと思う
歯並びがよくなるだけでなく、カルシウムも同時に接種できる「一石二鳥」
あつたら孫に食べさせたい

ツーリストキャンプを後にして、ウランバートル市内へ向かう
途中、近代的ショッピングセンターもできつつある



ウランバートルのスーパーマーケット

ウランバートルナンバーワンデパート

観光バスが横付けされ、観光客の殆どが訪れるデパート



1階を入ると貴金属や化粧品売り場

奥に進めばスーパーマーケット



入口を入ればくだもの売場

殆どが輸入品のような



その隣はスイーツ売場

入口付近に「甘いもの」を集めるのはどこも同じだ

バタークリームを使った甘そうなケーキが並ぶ

パン売場も広い

モンゴルのパンとヨーロッパのデニッシュなどが売られている



野菜は冷蔵ケースで販売

野菜は貴重品だ

袋に入れられているか、ラップされている 鮮度もよい

続いて乳製品コーナー

牛乳、ヨーグルトが並ぶ



ヨーグルトをバケツで量り売り、頼めばビニール袋に入れてくれる

見ていると大きなお玉 1杯いくらという売り方だ

牛乳とヨーグルトのマネキン販売

グラス(牧草)で育った牛乳の乳脂肪分は 3.2%

トリノのイータリーの牛乳と同じだ

日本の 3.5 牛乳は、グレイン(輸入穀物)で育った乳牛

低温殺菌牛乳のような味



その前は冷凍食品売場



冷凍野菜、冷凍魚、冷凍肉、アイスクリームが一応揃っている
第2コーナーの突き当りが対面の肉の量り売り
「赤い食品」を売る売場だ



ブロック肉 モンゴルではスライス肉は売っていない 自分で包丁で切る
韓国キムチの量り売り
かなり韓国食品が入り込んでいる



ハムの量り売りもある
ハンバーガーや弁当らしきものも



ロテサリーチキン

満杯に入れられ、おいしそうに焼上がっている
たぶん、輸入のブロイラー

ヨーロッパのスーパーマーケットを見ているようだ

チルド売場のハムの殆どがケーシング



「粉食文化」だけに、生パスタの品揃えも多い

韓国製のチルド商品もかなり多い

韓国キムチ



うどんなどのチルド商品

韓国のスーパーでよく見かける肉の加工品



魚の品揃えは少ない

真空パックの燻製魚

日本にはないがけっこうおいしい

これも、ヨーロッパの内陸部でよく見かける商品
予想以上に近代化されているスーパーマーケットであった

コンコース平台に積まれた菓子の袋詰め

6月1日はモンゴルの「子供の日」であるため、子供のプレゼント用



モンゴルで取れる黄色いベリーのジュース

何種類も品揃えされている 茶売場 モンゴル人はよくお茶を飲む
端から端まで茶が積まれている 主にウーロン茶のような中国茶と紅茶
ブロックタイプもあれば、ティーバッグもある



海がない為、魚の缶詰は充実している

くだものも少ない為、フルーツ缶の品揃えも多い ルーツ缶はレストランでもよく使われている

国民酒 ウォッカ売場

Gondola 2本使っている チングスハンをイメージしたパッケージもあるが、ほとんどがロシア製 寒い地域であるため、よく飲まれている モンゴル式の乾杯には付き合わない方がいい



食品エンドには日本のヤマサの商品

もう少し頑張ってほしい



ロッテの商品も定番

入口にはロッカーがあり、カバンは持ち込めないようになっている

ロッカーがいっぱいで、溢れた場合は「スタッフが见ているからショッピングカートに入れろ」と言われる

仕方なくそこに預けた

値段を付けるエラベラーでバッグにラベルを貼り、同じ番号のラベルを受け取る

買物を済ませてその場所に行ってみると、私のリュクは無人のまま放置されている

よく無くならずにあったと思う



カフェで

カフェでコーヒーを飲もうと値段を聞くと

電卓で「4500Tg(100Tg=約6円 270円)」と表示した

手持ちの全てのお金は2500Tg(再換金できないため、現金は使い切らないと)

ドルも使えるが、おつりは現地通貨で返される

笑いながら冗談で「2500Tg(150円)だけ入れてくれ」と言って現金を見せる

紙カップに普通の分量を入れて黙って渡してくれた
こんな気持ちがうれしい
モンゴル人は心が広い

街を走っていると、新しいショッピングセンターが続々建設されている



出店予定があるのか、韓国のスーパーマーケット「イーマート」の看板も

購入商品

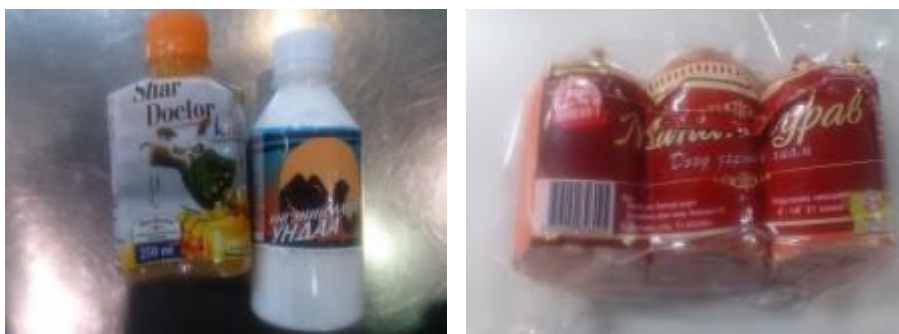
いろいろと買ったが、試食する時間がない
観光、買い物、夕食を食べて、ホテルに着いたのは夜 9 時過ぎ
翌日は、6 時半ホテル発 風呂に入って爆睡

モンゴルの「イエローベリージュース」と「ラクダ乳のドリンクヨーグルト」

これは、空港で飲んだ

ジュースは甘味が少なくすっぱい

ラクダヨーグルトは、塩味、酸味があり、かなりクセがある味



ハム類

ハム類は、日本への持ち込み禁止商品

モンゴルからの到着便のチェックは厳しい 口蹄疫予防のため

結局、食べることなく廃棄

ケーシングの 3 種類のハムの半分カット

ビーフジャーキー



ヒツジ肉のポイル？

巻寿司(中巻サイズ)のラップ巻

ラップされ、普通に冷蔵ケースで売られている



チーズ チーズは日本に持ち込みOK ラップ巻のフレッシュチーズ
フレッシュモッツラレラのような食感だが、これも少しくセがある



ソフトチーズ



セミハード



ハードチーズ



超ハードチーズは、歯が欠けそうなので買わなかった

私としたことが、時間がなく、ハム類は一口も試食できなかった
残念！ 中2日しかないパック旅行はツライ

ウランバートルの「生鮮市場」

生鮮市場の中でも、中間層や観光客用の市場らしい
庶民の市場は別にある 駐車場は常に満車だ



中は、ドライ食品ゾーンと生鮮食品ゾーンに分かれている
商品が高々と積まれている



日本の製品も少しだけあるが、別に常に売場が決まっている訳ではないようだ
品揃えの殆どが、ロシア製、中国製、韓国製、あるいは中東の国の商品



モンゴル人の食文化は、小麦粉、肉、乳製品(ヨーグルト、バター、チーズ)、茶(中国茶、紅茶)が主流

遊牧人がパンを揚げる脂は、「ヘット(牛脂)」で「ラード(豚脂)」は歴史的にみても使われていない

揚げカスはスープなどに入れているのであろう

日本の関西地方では、「カスうどん」が有名

スープとよく合う

寒い地域であるため、北欧やイギリスの食文化によく似ている

牛乳、ヨーグルト売場

モンゴルでは「白い食べ物」と「赤い食べ物」とに分けている

乳製品は「白い食べ物」

肉類は「赤い食べ物」

パックされた乳製品は先進国と変わらないが、常温で売られている

チーズ売場

フレッシュチーズ、ソフトチーズ、セミハードチーズ、ハードチーズ、超ハードチーズとあらゆるチーズが揃っている

上段にあるのが超ハードチーズ(キャンディのように硬いチーズ)

ヤギのチーズはない

その理由は、乳牛に比べて搾乳量が少なく、効率が悪いからだと言う



ハム、ソーセージ売場 殆どはケーシングで牛肉、ヒツジが主

生鮮食品コーナー

くだものの殆どは輸入品



野菜売場

最近ビニールハウスでトマトやキュウリなど作られているようだが、たぶん中国からの輸入

品が多い ただし、地下系野菜(じゃが芋、人参、玉ねぎ、かぶ)や寒さに強いキャベツなどの野菜は、昔から川の近くの平地で栽培されている
その他、自生のニラやキノコ、ニンニクがあるようだ
木の実(松の実)やベリー類もある
昔から国内でつくられている野菜は、オーガニックが期待できる

世界の市場と同じように販売員は高い位置に見下ろすように立っている



肉売場

モンゴルではあまり食べられない、豚肉が殆ど売場を占めている
「ないもの、少ないものを手配するする」のが食品小売業の使命
これも、たぶん輸入品だと思う



市場で働くのは女性で男性は見かけない
器用に骨から肉を剥がしている

顧客は、中間層の地元客、中国人や韓国人、ロシア人をターゲットにしているようだ



ヒツジや牛肉、ヤギの肉の需要は、自給自足が多い為少ない
それらがメインになるのはたぶん庶民の市場だろう
迫りに欠ける

ヤギかヒツジの骨付き肉はあるが、ボリュームは少ない



鶏肉は見かけなかった

これも自給自足か

ガイドは「モンゴルの鶏は硬い」というが、「地鶏」であるため、硬いのは当たり前
柔らかいものは輸入のブロイラー

子供はだんだん柔らかい鶏肉を食べるようになったという

魚は、川魚のコイ、フナだけ るごと燻製され真空パックされたものをよく見かける

お土産にロシアのチョコレート詰め合わせ1kg1300円を購入

女性群は量り売りで好きなものを選んで袋に詰めている

帰国して食べてみたが、ウエハーのチョコかけが殆ど

カカオ含有量は少ないが、なにせボリュームは満点



モンゴル岩塩をお土産に買っている者もいる

キャビアも売っているが、あまり土産に買う者は少ない

モンゴルで期待してはいけないものは、くだもの、生鮮野菜、鮮魚、豚肉、米、砂糖菓子、ワイン

そういえば、私はロシアには一歩も足を踏み入れていない

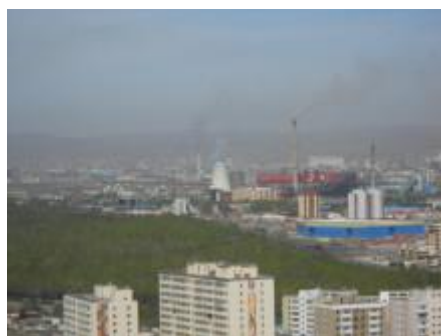
今度機会を見て行こうと思っている

行くとしたら、極東のウラジオストック、ハバロフスク、旧カラフトかな

モンゴル市内が一望できる高台へ
ロシアの援助で建てられた記念碑



長い階段を登る 頂上からの景色
奥の丘にはまだゲル集落が残る



急速に近代的ビルが建ちつつある
中央に見えるのは火力発電所

頂上の建造物には何やらフラスコ画らしきものが描かれている



順序は少し違うかも知れないが、ストーリーになっている



ここから日本人満蒙開拓団の悲劇が起こる

最後の写真の左側に宇宙服を着ている人物は、ガガーリンと共に宇宙へ行った人
絵であるため、子供にも分かるようになっている

日本の「旭日旗」の次に、ドイツの「ナチスドイツ旗」が描かれている

この絵の順序は正しい これは重要なこと

第二次世界大戦中、モンゴル軍はソ連軍と共にドイツ軍とも戦っている

日本とモンゴルとの関係の絵が、ナチスドイツの手前にあると言うことは、

1939年「モノハン事件」(満州国軍とソ連軍、モンゴル人民共和国軍との戦い)

ソ連軍、モンゴル軍の勝利の絵であることを意味している

もし、ドイツ降伏後にその絵があったとすれば、「日ソ中立(不可侵)条約」に関係してくる

その条文の中には、「満州国とモンゴル人民共和国 それぞれの領土の保全と不可侵」の
声明文がある

それを破ってソ連軍が南下したのは誰でも知っているが、モンゴル軍はどうだったのか？
なぜこれにこだわるかと言えば、私の出身の南信州は、日本で一番満蒙開拓団が移住し、一番被害を出している地域であったからだ



阿智村「満蒙開拓平和記念館」資料

これは、日本人として知っておかなくてはならないこと
頭を下げるだけの日本人であってはならないと思う
頭を下げる時はしっかり下げる、言うべき時にはしっかり頭を上げて言う
世界平和のためにお互い歴史の勉強し、いい関係を築いていきたい

チンギスハン広場



周りには近代的ビルが建つ

手前の騎馬像はモンゴル建国の父「スフバータル」

以前は、「スフバータル広場」と呼ばれていたが「チンギスハン広場」に改名された
石碑にはモンゴル文字が書かれている



第二次世界大戦の英雄だが…
その後、モンゴルは暗い時代を迎える
モンゴル国旗に使われているデザイン
中心に「陰と陽」の印も



中央の像はチンギスハン像



「チンギス ハーン」

堺屋太一著 日本経済新聞出版社「世界を創った男 チンギスハン」を読む
チンギスハンは「どんな思いでモンゴル帝国を建国したか」、その生い立ちから詳しく書かれている



モンゴル帝国勃興の原因は何か

9世紀から12世紀までは世界は「温暖な気候」であった

これはモンゴル草原にとってはいい気候条件ではなかった

モンゴルには「黒い災害」と「白い災害」の二つがある

「黒い災害」は冬に山に雪が少なく、水不足になるという災害

「白い災害」は、冬には粉雪が降るが降水量は日本の十二分の一

地面に厚く固まることがない為、動物は蹄(ひづめ)で雪を掘り餌を食べられる

しかし、温暖化により「ぼた雪(ゾド)」が降り、それが地面を凍らせてしまい、動物がエサを食べられず大量死する災害

それにより、氏族間の略奪が起きたり、草原を求めて南下し始めた

これがモンゴル帝国の始まりである

終わりも異常気象による民族分裂であった

1999年～2000年にかけても「ゾド(ぼた雪危害)」が起きて、馬570万頭が餓死している

日本も援助を行って、感謝されている

歴史は繰り返すが、世界はいい方向に向かわなくてはならない

チンギス ハーン(1162年～1227年 在位1206年～1227年)について自分なりに、簡単にまとめた

①「ビジョン」

「人間に差別なし 地上に境界なし」

民族、氏族、宗教に寛大であった

宗教によって国境があってはならないという考え

スゴイことです 今までの歴史の中でこんな指導者はいない

それにより、いろいろな宗教、民族から多くの物資や情報を集めることができた

②「コンセプト」

「略奪品は均等に分配」「税金は2%」それにより、「小さな政府」ができた

支配された人々の不満は少なかった

③「ストーリー」

モンゴル帝国は「野蛮」「殺戮」「破壊」の印象が強いが、実際はそうではなかった

まず、特使を送り、その返答により対応を変えた

「第一レベル」配下にならないかとメッセージを送る

「第二レベル」二回目で応じた場合は莫大な罰金を課す

「第三レベル」応じない場合は、攻撃して馬車の車輪以下の背丈の子供、女性を除き、皆殺し

第四レベル 一度は従ったが反旗を翻した場合は、「皆殺しと街の完全破壊」

④「シンボル」

「ハーン」というシンボルを置き、遊牧民の君主とした

ハーンには必ず「シャーマン(祈祷師)」が付いていた

モンゴルにはいたる所に、盛り上げた石にカラフルな布の付いた祈祷所がある

堺屋太一は、チンギスハンの刀や弓を使った「皆殺し」は相当残酷のように聞こえるが、絨毯爆撃も核兵器の使用と同じであると言っている

モンゴル滞在中に、アメリカのオバマ大統領が広島を訪れている

人類は、同じ歴史を繰り返されないようにしなくてはならない

正面に向かって左側は、第2代ハーン「オゴデイ」

チンギスハンの三男、妻ボルテの子

長男は出生が複雑で、次男は凶暴であったため、三男のオゴデイがハーンとなった

妻ボルテは敵将につかまり妊娠

チンギスハンは自分の力のなさを深く反省し、その子供(長男)も妻も生涯大切にしたい

それ以来、モンゴルでは一般家庭も一番下の男子が家系を継ぐようになったという



「フビライ ハーン」(1215 年～1294 年 在位 1271 年～1294 年)



第 5 代目のハーン チンギスハンの孫

「通商」「経済の発展」「組織づくり」にたけていたハーン

領土も最大規模に拡大し、全盛期を迎える

領土はモスクワ、ハンガリー、ポーランドまで拡大している

グローバル企業を目指すならば必ず読んでおきたい一冊

「元寇(1274 年 1281 年)」

日本にも6回も特使を送ったが、鎌倉幕府の北条時宗はそれを拒否

特使の耳を切り落とし追い返したと言われている

それがフビライの怒りを買った

ここから分かるように、モンゴル帝国は予告なしに侵略、略奪を行なった訳ではない

結果は誰でも分かっているが、第二回目の「弘安の役」は世界最大の艦隊であったと言われている

もし上陸していれば、「第三レベル」であるため、日本民族は居なくなっていたかもしれない

今考えればゾツとする

それだけ、モンゴル帝国は強力な国であった

「クビライの挑戦」杉山正明著 講談社学術文庫



「マルコ・ポーロ」(1254年～1324年)

ヴェネツィア共和国生まれ

1271年 父、叔父とともにアジア各地を旅する

フビライにも仕える

フビライの下で各地を回り、民族、宗教、産物など情報収集を行う

CIAのような役割を果たす

帰国後、ジェノヴァ戦争に志願するが、捕虜となり投獄

フランス人の「ルスティケツロ」と共に「東方見聞録」をフランス語で書く

内容には「おとぎ話」的なものもある

日本に関しては、

「住民は肌の色が白く礼儀正しい。また、偶像主義者である

島では金が見つかるので、彼らは限りなく金を所有している」と書かれている

中尊寺金色堂も「床にも2ドワ(4cm)の厚みのある金の板が敷き詰められている」と描かれている。

「マルコ・ポーロ 東方見聞録」月村辰雄・久保田勝一 訳 岩波書店

マルコ・ポーロ墓地 ベネチア「サン・ロレンツォ教会」



マルコ・ポーロのことは何も書かれていない

空港は、「マルコ・ポーロ国際空港」と名前がつけられているが、彼を忍ものが少ない

クリストファー・コロンブス(1451年～1506年)

ジェノヴァ共和国生まれ マルコ・ポーロの死後、127年たってコロンブスが生まれている

コロンブスは「東方見聞録」を読んで、日本を目指す

ジェノバのコロンブスの生家



ここから、大航海時代が始まる 歴史は、オスマントルコ(イスラム教)、スペイン、ポルトガル(キリスト教)の時代と変わって行く
チンギスハンが目指した
「人間に差別なし 地上に境界なし」
そんな時代が来ればいいと思うこの頃である

モンゴル歴史博物館

チンギスハン広場から歩いてすぐ



写真撮影をするためには、入場料+写真撮影代を払う
日本との関係を中心に見たため 古代の展示物は略します
初期の「鏃(やじり)」



4種類の動物のくるぶしのサイコロ
チンギスハンも子供頃遊んでいた
子供ながら因縁の賭けがあった

モンゴル軍の弓と鏃

弓は柳の木でできている

馬の上から放つため、日本の弓に比べて短い

ゲルで現物を手に取って見たが、日本の弓は耳まで引くが、モンゴルのものはそこまで引かない

日本の弓は、的に向かい直角に引くと耳をそいでしまうため、

外に外して、左手首を返す撃ちかた

それに比べ、モンゴルの弓はそれほど引かないため、弓の右にも左にもセットできる

モンゴルの弓は命中精度が高く、300mも飛ぶらしい



鉄の鏃

いろいろなタイプがあり、破壊力は抜群であつたらしい

太いものは馬用かも知れない

モンゴル軍の戦術は、まず馬を撃ち、落馬した兵士を狙う

鎌倉時代の鏃では太刀打ちできなかったように思う



2階へ進む



モンゴル帝国時代の衣装

民族によって衣装が違う



宝飾品

キセル

日本のものと変わらない



箸入れ

キセルと箸がセットになっている

モンゴル軍の武具



モンゴル人は後ろを向いても矢が射れる

モンゴル帝国の地図



元寇の記録もある よく見ると「高麗(韓国)」も参戦している

投石器

当時は「火薬」も開発され爆弾らしきものもあった



ノモンハン事件

満州国とモンゴル人民共和国の間の国境線をめぐる紛争

日本陸軍とソビエト赤軍の代理戦争

日本軍は撤退



当時の写真

ジオラマ

日本軍の残酷さを表している

よくある展示だ



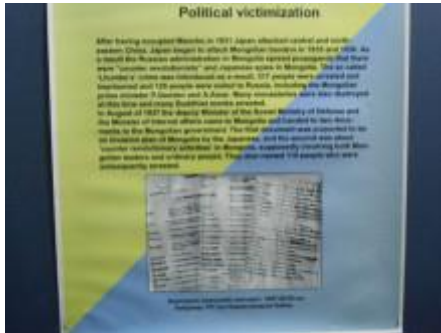
当時の大砲 終戦 ガガーリンと共に宇宙へ行ったモンゴル人



日本の要人の写真



恒久平和を願う宣言

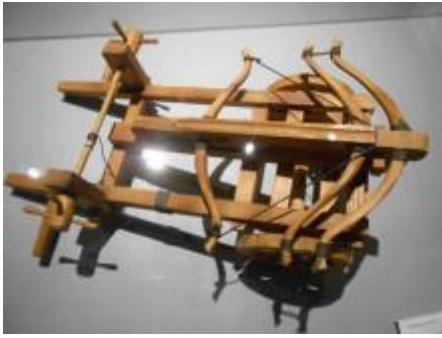


二度と不幸な戦争がないようにしたい



チンギスハーン国際空港から帰国
新しい空港がもうすぐ開港するらしい
空港の展示物
石器時代のもの

18世紀の武器
ボーガンの技術が取り入れられている



機内食

やはり肉料理 選択の幅はない



成田空港に到着

「YOUは何しに日本へ」撮影中



平和だ！

まだ、書きたいことはいっぱいあるが、時間が許さない

以上、モンゴル特集は終了